

## 事業形態・規模

○高速乗合バス ○従業員数：約500名（内乗務員：約360名）

# 3方向から健康を管理する

健康経営～日本一健康な乗務員が多い会社にする～

## 運転士の健康マネジメント

年2回の健康診断＋追加検査

### 重大事故に繋がる3つの疾病を把握

- I. 脳疾患：脳ドック、眼底検査
- II. 居眠り防止：SAS検査
- III. 心疾患：心不全診断  
(BNP検査、心・肺血管CT検査)



## 運行中の状態把握

運転士用 眠気予兆検知機器の導入

### 眠気検知器

- ・ 振動で注意喚起
- ・ 眠気の予兆を感知
- ・ ドラレコ・デジタコと連動

### ドラレコ・デジタコ

- ・ 自動データ送信
- ・ GPS及びジャイロセンサー



### 営業所にてリアルタイムで把握

- ・ 運転士へ即時指導が可能
- ・ 眠気データを収集解析
- ・ ハザードマップへ反映等、業務改善・指導教材に活用



## 健康改善PDCA活動

健康指導・改善の充実強化

### 保健師による保健指導等

- ・ 個々の運転士に対する指導  
(管理目標の設定や取組)
- ・ 運行管理者に対する指導  
(健康に関する知識習得と指導方法)



食事改善



個別面談／定期研修開催  
(運転者本人の自覚を促す)

# 安全の「見える化」を推進

# 『新規施策の積極的導入』を経て『持続可能な取組の推進』へ

## 乗務員に対して「正しく伝える」

- 全乗務員に対して保健師が面談
- 新規採用者に対する教育の中で「健康管理の重要性」について周知

## 乗務員に対して「会社が寄り添う」

- 経営トップの強いリーダーシップの下、普段からの会社ぐるみで取り組むんだという姿勢、意思表示
- 経営トップはじめ管理職が運行途中のサービスエリアに赴き、乗務員に声かけ等を行い体調確認を行う「安全調査」を定期的実施

## 乗務員に対して「取り組みやすい仕組みを提供」

- 脳ドックの結果は乗務員個々の携帯電話に配信（撮影された画像を直接見ることによって問題意識を啓発）
- 「健康増進キャンペーン」を実施  
半年ごとに受診する健康診断結果を4つのカテゴリに分類し、健康を維持している乗務員、次回検診結果に改善が見られた乗務員に手当を支給  
→ 全体の半数以上の乗務員が手当を受けた（**全体の半数以上の乗務員が健康維持・改善**）

すべての取組において  
**乗務員とのコミュニケーションの確保**  
を第一に考え実践